



はじめに

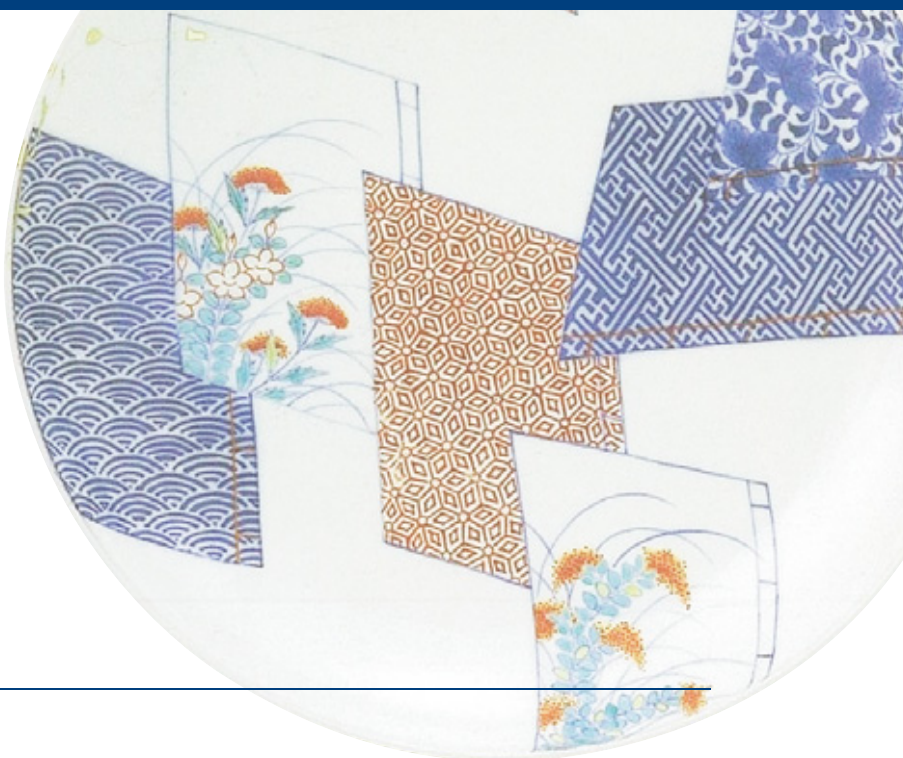
本市は、江戸時代に、国内はもとより遠くヨーロッパ諸国の王侯貴族にも愛好された肥前磁器「伊万里焼」の積み出し港として栄えるとともに、大川内山には佐賀藩の御用窯が築かれ、将軍家に献上することを主目的とした国内最高峰の磁器製品である「鍋島焼」を産み出すなど、今日まで続く伝統と文化のまちとして、現在も肥前窯業圏の一翼を担っています。

また、臨海部を中心に造船業、木材加工業、IC関連企業などの製造業が集積するとともに、伊万里港においては、国の重点港湾及び日本海側拠点港に選定され、中国・韓国をはじめとした東アジア諸国との国際物流の拠点化が進むほか、豊かな自然環境を生かし、伊万里ブランドとして名高い伊万里牛や伊万里梨に代表される農業が本市を力強く支えてお

り、自然と産業が調和したまちとして着実な成長を続けています。

その一方で、全国の多くの自治体と同様に、少子化の進行や東京圏への人口の一極集中などによる本格的な人口減少社会の到来をはじめとして、経済のグローバル化の拡大や高度情報化社会の急速な進展、度重なる自然災害の発生による市民の防災・コミュニティ意識の高まりなど、本市を取り巻く社会環境は大きく変化しています。

このような中、人口減少が及ぼす様々な影響を最小限に抑え、持続可能なまちづくりを推進していくためには、市民が、仕事やまちづくりの活動を通して、地域社会に主体的かつ積極的に参画し、それぞれの役割で地域を支え、地域の課題を住民主体で解決していく



ことが最も重要であり、市はその活動を適切に支援していく必要があります。

このため、第6次伊万里市総合計画では「時代に柔軟に適応し、みんなで支え育てるまちづくり」を基本理念とし、従来にない柔軟な発想で地域課題に対応し、将来を託す人づくりに努めながら、これまで以上に、市民どうしの助け合いや市民との協働によるまちづくりを推進していくこととしています。

また、「人がいきいきと活躍する 幸せ実感のまち 伊万里」を将来都市像に掲げ、市民ひとりひとりが、地域や職場、家庭において、生きがいを持って充実した暮らしを送ることができ、心から幸福だと実感することができるまちを目指してまいります。

今後、この計画を着実に推進し将来都市像を実現していくためには、市民に郷土への誇りや愛着心を高めていただけるような事業の展開を図りながら、地域や各種団体をはじめ市民と一体となった「オール伊万里」での取組が不可欠でありますので、市民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後に、計画の策定にあたり、市民アンケートへの回答やワールドカフェへのご参加などにより、貴重なご意見、ご提言をお寄せいただいた市民の皆さまをはじめ、慎重かつ熱心にご審議いただきました市議会および市総合計画審議会の皆さまに対し、心から感謝申し上げます。

令和元年6月
伊万里市長 深浦 弘信